

# 会報

## ◇奈良大学史学会総会

五月二十九日(土)、本学において、第二十二回奈良大学史学会総会を行った。二〇〇三年度の決算・会計監査報告及び事業報告が行われ、ついで二〇〇四年度の役員人事案、事業報告計画案とそれに伴う予算案が提案され、それぞれ原案どおり承認された。

二〇〇四年度の役員は以下の通り。

### ▽会長

森田 憲司

### ▽副会長

丸山 幸彦

### ▽教員委員

#### (編集)

角谷 常子

#### (監査)

鎌田 道隆  
守山 記生

#### (庶務・会計)

青木 芳夫

#### (庶務・交換)

森田 憲司

### ▽学生委員

#### (代表)

丹所 宏介

#### (副代表)

石谷 林太郎

#### (広報・総務局長)

白井 巳古都

#### (青垣祭企画実行局長)

山里 慎一

#### (四回生委員)

木下ちひろ 桑木健太郎 清水 勇樹

#### 鈴木 禎匡 玉野 将史 広瀬 茜 松井 勇治

#### (三回生委員)

塩田 篤司 鷹野 義朗 富田 直美

#### 宮本真理子

#### (二回生委員)

會田 朋子 東 祐希 石野 裕也

#### 大倉 俊美 川崎 恵美 清水 智也 鈴木 裕美

#### 田中 美穂 谷村 智哉 永門 和也 西野 晶洋

#### 西谷 春佳 福本 真衣 間島多佳子 宮崎 琢也

#### (一回生委員)

田中孝太郎 中村 裕明 日比野希由

#### 船石 佳彦 増田 真吾 渡辺 純

## ◇特別講義

五月二十九日(土)、史学会総会に引き続き、特別講義が行われた。

講師・演題は以下の通り。

望月 幸男氏（同志社大学名誉教授）

「ナチスは『暴力・独裁・侵略の党』か——歴史における真実とイメージ——」

#### ◇史学体験ツアー

毎年恒例となった史学体験ツアーは、昨年度から広報・総務局が中心となって企画され、六月十三日（土）、「法隆寺体験ツアー」を実施して、法隆寺周辺を散策した。本学料の学生の参加が多く、好評だった。ついで、十一月二十一日（日）には「紅染の京都侘びツアー」が実施され、南禅寺周辺を散策し、参加者の好評を得た。

#### ◇「史学会会報」等の発行

奈良大学史学会の普及を目的として、「史学会会報」を二ヶ月に一回発行し、史学会の企画案内、各地の史跡や祭事等を掲載した。

また、本年度も一回生を対象に来年度以降の講読・ゼミを決定する上での参考資料として、各ゼミに所属する学生の執筆による「講読紹介」を発行した。

#### ◇青垣祭

昨年度に引き続き、青垣祭（学園祭）に出展した。本年度は「日本人と茶」のテーマで展示発表を行った。会場では日本における茶の歴史や茶室などをパネル・模型で紹介した。また、これまでの日本人と茶についての研究をまとめたレジュメを作成し、来場者に配布した。十一月一日（日）から十一月三日（火）の三日間で延べ一〇〇人を越える来場者があった。

ご協力いただいた方々には深くお礼を申し上げます。

#### ◇会員動向

○菅野正氏は、二十四年に涉って東洋近代史を担当してこられたが、本年三月末をもって定年退職された。

○角谷常子氏は、四月に着任された。学部と大学院において東洋古代史関係の講義・講読・演習を担当される。

○栗原麻子氏（西洋古代史担当）は、本年九月末をもって退職し、大阪大学大学院文学研究科に転出された。

○森田憲司氏（東洋史担当）は、汲古書院より論文集『元代知識人と地域社会』を刊行した。

○森田憲司氏（東洋史担当）を代表者とする日本学術振興

会科学研究費補助金基盤研究(B)「一三、一四世紀東アジア諸言語史料の総合的研究—元朝史料学の構築のために」(平成一六、一八年度)がスタートし、九月には、ニューズレター「一三、一四世紀東アジア史料通信」の第一号が発行された。

○明石岩雄氏(日本近現代・日中関係史担当)は、九月十七日から二十一日まで、中国江西省南昌市及び上海市において現地調査を行った。

### 平成十五年度史学科卒業論文題目

#### 【日本史】

八十嶋祭についての一考察 上田 理絵  
 日本古代における医療制度について 大黒 景子  
 — 養老七年十月八日格を中心とした地方医事制度の改革—  
 古代采女制度の変質 岡本 隆浩  
 — 采女の資養法について—  
 平安朝の相撲節について 桐山 まどか  
 古代の服飾について 小林 千穂  
 — 禁令から見た衣服令の成立事情とその動向—

#### 日本古代女官の一考察

佐々木 晃子

— 令制下における采女貢進制の意義について—

#### 義倉に関する一考察

澤田 昂史

#### 古代における土器貢納制について

志麻 清香

#### 平城上皇と平城京

菅井 浩子

#### 賀茂神社の性格についての一考察

高木 雪絵

#### 藤原仲麻呂政権と仏教

通山 佳子

#### 平安時代初期の皇親賜姓について

中原 裕治

#### 日本古代の水上交通について

橋本 文子

— 勝戦料を中心に—

#### 参議に関する一考察

原 俊一

#### 古代における日本と新羅の関係について

平嶋 一彦

— 新羅征討計画 その背景と性格—

#### 大極殿朝賀・即位式における思想

福井 美緒

#### 光明皇后と仏教について

藤井 正一

— 「法華滅罪之寺」という名称—

#### 日本古代の節日について

堀之内 雄亮

#### 日本古代氏女制に関する諸問題

村松 三樹緒

#### 壬申の乱における大海人皇子の湯沐邑

毛利 智広

日本古代の賤民について

—奴婢の抵抗の意義について—

長屋王の仏教政策について

—藤原四子政権との比較—

奈良時代の算生について

古代縫殿寮について

富本銭から和同開珎へ

雑供戸について

☆ ☆ ☆

南蛮人の見た堺

—宣教師を中心として—

海賊衆と戦国大名の水軍編成

中世の若狭について

—大音文書を中心に見る浦—

堺衆について

—天王寺屋津田宗及を中心—

御館の乱

—小田原北条氏と上杉三郎景虎—

源平争乱期の讃岐について

—在地支配から見る平氏滅亡—

毛利 真由美

梶雄・松永久秀  
寿桂尼と太原雪斎

山田 和生

—今川氏の繁栄を支えた者たち—  
細川政元政権の諸問題

山田 めぐみ

鈴木 裕輔

田中 寛治

平山 祐輝

—主として絵図を中心に—  
東郷荘『下地中分の実態』について

荒谷 琢磨

平安末期から鎌倉期にかけての千葉氏の動向について

石田 英治

上田 薫里

土佐の流人について  
足利義政とその時代  
土岐氏の文化について

岸田 陽子

—土岐頼貞の和歌と禅宗—  
中世における南山城の交通について

北田 真知子

—強訴時の宇治橋の防禦機能を中心に—  
中世大和における国人衆の動向

杉本 充

—超昇寺氏を中心に—

高橋 求

中井 ちあき

中村 敦子

中村 知子

長尾 宣博

永見 祥子

西河 心平

濱田 有紀

播 弥由紀

松下 圭

丸山 典子

溝田 直己

越中守護代神保氏について

宮田 康之

島原の乱以後の禁教とキリシタン崩れについて

大西 賢也

後三条天皇の時代

村谷 美幸

近世における民間医療と民間信仰について

沖 康信

—四年八カ月の「善政」、後三条がその治世で目指したものは—

奈良奉行の町方支配における近世的展開

音光 俊也

俊乗房重源の勸進活動について

森田 佑貴

土佐勤王党結成と諸藩の志士たち

勝田 好洋

—東大寺再建における源頼朝との関係を通じての一考察—

柳下 英明

幕末・維新时期における山国農兵隊の動向

川崎 泰平

—徳川家光の正嫡継承からみる徳川家と春日局の関係を中心に—

戦国期武家家法にみる戦国大名の領国経営の特色について

—今川氏を例に—  
北林 正希

戦国期における北九州の支配権争いについて

山根 一史

大和郡山城下町の発展とその周辺農村とのつながり

佐々木 康秀

—大内氏の九州侵略と佐田氏の動向—

山根 一史

幕末から明治初期における日本茶の展開

鈴木 雅也

戦国大名宇喜多氏について

山本 健二

文化遺産・銭湯

高本 邦光

—宇喜多直家の生涯を中心に—

—江戸時代の銭湯と大衆—

柳生宗矩の『兵法家伝書』に見る近世剣術思想

津村 真吾

戦国期島津家について

吉村 茂晃

加賀一向一揆における「郡」についての再検討

中村 賢一

☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆

近世京都における植木屋仲間成立と展開

市川 啓志

近世都市圏と塵芥

井上 尚

近世氷見灘浦の台網漁業と漁場利用

永井 宏典

近世中後期大坂における食職業の発展

入江 智子

近世中後期の大阪をめぐる都市観の形成

西野 章子

安政大地震における情報と民衆

野嶋 絵美

安政大地震における情報と民衆

野嶋 絵美

近世京都の寺院をめぐる権力と民衆

林 宏俊

福井県の成立について

清水 慧吾

江戸時代における女訓書について

馬場 貴美

— 府県分合と嶺南四郡の復興運動 —

石見銀山領における掛屋についての一考察

藤原 雄高

大正デモクラシーにおける文学者の思想と行動

『甚太郎一代記』から見る奈良大和の農民と農村

元重 雄平

明治期における女子の教育について

高千穂 有希

近世三国湊の発展と森田家の動向

山口 真琴

二二式村田銃

田中 崇大

近世初頭における『老人雑話』の歴史理解と教訓

杉山 尋章

— 明治に生まれた銃 —  
日本統治下における在台湾日本人の教育体制

阿部 康子

茶屋 剛

☆ ☆ ☆

戦争責任について

家子 司

戦争と軍医

野末 妙子

— 民衆の責任の所在は —

家子 司

昭和初期のテロリズムと財閥

林地 寿典

二・二六と同郷人

家子 司

— 三井財閥の二人のリーダーと池田を通じて —

藤本 彩

第一次護憲運動の中央と地方

池田 正司

— 1944年 東南海地震を中心に —

高知県安芸郡における教職員組合運動

大井 規史

昭和初期の高知における反戦運動

森本 琢磨

— 勤評闘争について —

大正時代の民衆娯楽

河野 晴佳

小津安二郎とその時代

佐々木 洋史

「君が代」の歴史とその役割

黒田 剛史

明治時代の馬事文化

橋本 拓弥

— 国歌としてふさわしい曲であるのか —

☆ ☆ ☆

【東洋史】

春秋時代の諸侯国の相互関係について

— 晋の覇者体制を中心として —

上田 志帆

唐代の儀礼における音楽

— 舞楽蘭陵王入陣曲蔡演について —

西田 直樹

秦漢時代の刑罰における家族

内山 愛

宋代の医療制度

唐代の民衆仏教

藤村 真也  
松田 知春

唐を中心とした国際関係

大石 剛

— 都市の民衆を中心として —

宋・明の船舶について

小笠原 一高

古代朝鮮における加耶諸国について

横谷 浩史  
吉村 太史

漢代における社会制度

神谷 高志

— 黄巾の乱の発生要因 —

— 蜀による刑罰減免に関する再考察 —

河崎 雄介

中世南インド社会について

川上 昌洋

— 諸葛亮孔明を中心に考察する —

小牧 洋介

— ヴィジャヤナガル王国の社会構造 —

唐代の隸屬身分について

武本 卓也

明・清時代と銀についての一考察

倉田 直樹

— 主に部曲・客女について —

モンゴル帝国の軍制について

西 真司

— 明時代を中心にして —

芝田 春佳

— 元代の探馬赤軍の構成問題 —

秦漢の商人身分と市制について

田中 綾

— 一九世紀インドにおける女性問題に焦点をあてて —

西尾 隆

元朝における三皇祭祀について

谷口 綾

チベット近現代政治史考察

山下 直樹

明清時代の銀と経済

甲午農民戦争に関する一考察

— 全国市場形成による国内経済の発展 —

真司

【西洋史】

古代ローマのリテラシーについて

遠藤 絵美

—初期〜帝政末期の教育を中心に—

古代ギリシア人と死

荻野 衣梨子

—ホメロスにおける運命意識と英雄観を中心に—

古代ギリシアの宗教儀礼

荻田 律子

『ギルガメシュ叙事詩』にみる古代シュメール人の生活風

景 —古代シュメール人の死後の世界観— 河波 篤志

古代エジプトにおける病氣と医療について 河村 美穂

北欧神話盛衰考 木元 雅也

重装歩兵について 小霜 浩司

古代ローマにおける剣闘士の世界 近藤 義高

古代エジプトの女権制国家説について 斉藤 結香

古代エジプトにおける東西文化交流 數元 昌基

—ヒクソスの定着を中心に—

古代エジプトにおける職人の生活 堂本 慎也

カルタゴ人ハンノの航海について 中川 亮

古代エジプトにおけるセド祭と三十年祭の關係について 野中 泰佑

古代ギリシアの政治裁判

平田 友美子

—ソクラテスの裁判を中心として—

初期キリスト教迫害について

丸山 輝子

バビロン捕囚がユダヤ人に与えた影響

三谷 昇

「ケルト」について

吉見 浩一

☆ ☆ ☆

フランス・ドイツのゴシック建築の形成について

池田 愛

—フランスを中心に—

十六、十七世紀のイギリスにおける魔女裁判

伊藤 彩子

聖職叙任権闘争について

岩橋 正浩

西欧中世末期における異端について

垣見 啓博

黒死病からみる西欧中世世界

河野 里香

大航海時代におけるスペインの歴史的展開

櫻井 洸介

中世におけるスコットランド王国の展開について

佐々木 唯充

—ケルン市を中心に—

西欧中世都市の成立と発展

谷池 直哉

十字軍時代における宗教騎士団の変遷

西出 喜紀

イタリア中世都市国家の形成

長谷川 朋子

西欧における封建王政の形成

福元 菜保子

アメリカ公教育の歴史

中西 智之

—英・仏の場合—

—成立期において見るその意義—

第一回十字軍の起源とその経過について

藤井 勇彦

カナダにおける日系人排斥の歴史

二之方わかさ

西欧中世における農業について

堀口 弘之

十七世紀植民地社会におけるインディオ共同体の変容について

人見 麻生

オランダ連邦共和国の成立

水野 悠子

イギリス絶対王政の成立と発展

吉田 周平

インカ帝国論

藤田 健

☆ ☆ ☆

—インカ帝国の拡大と衰退—

アメリカ合衆国の膨張主義とカリブ海地域

上田 章詞

第一次中東戦争と中東紛争の恒久化

松岡 圭佑

—その転換点と形態—

浦島 礼学

テオティワカンについて

矢野尾 貴史

マヤ文明論

浦島 礼学

アメリカの公民権運動について

山崎 圭祐

—古典期マヤ文明の社会形態—

—キング牧師と黒人問題—

風車の歴史と世界遺産

小川 喬功

平成十五年度大学院修士論文(史学関係)

大西 由子

キューバ革命とラテンアメリカ

沖野 成郎

興福寺大衆と放氏

立石 智章

—大陸革命までに見られる革命の本質—

窪田 絃之

撫育方の論理とその社会的機能

山本 憲太郎

ナチス・ドイツの反ユダヤ主義

窪田 絃之

近代石清水(男山)八幡宮の存在意義について

山本 憲太郎

—テオティワカンのケース—

小泉 友明

漢代における軍隊について

山縣 奉史

オーストラリア先住民アボリジニをめぐる問題について

塚本 新二

—補給体制から見た軍の運営—

山縣 奉史

飼育か否か

大谷 博則

—ペルー海岸部におけるラクダ科動物骨の解釈をめぐって—

受贈雑誌及び図書 [二〇〇三年十一月  
二〇〇四年一〇月]

AZUR (成城大学フランス語フランス文化研究会) 第

五号

岩手史学研究 (岩手史学会) 第八七号

エウローペー (成城大学大学院文学研究科ヨーロッパ文化

専攻) 第一三三号

大分県立歴史博物館研究紀要 第五号

鴨台史学 (大正大学史学会) 第四号

鷹陵史学 (鷹陵史学会) 第三〇号

お茶の水史学 (読史会) 第四七号

海南史学 (高知海南史学会) 第四二号

漢学研究通訊 (漢学研究中心) 第八八—九一期

紀尾井史学 (上智大学大学院史学専攻院生会) 第二三三号

京都橘女子大学研究紀要 第三〇号

キリスト教史学 (キリスト教史学会) 第五八集

ぐんま史料研究 (群馬県立文書館) 第二一、二二二号

神戸大学史学年報 (神戸大学史学研究会) 第一九号

史苑 (立教大学史学会) 第六四卷第一・二号

史学 (三田史学会) 第七二卷第三・四号

史学研究集録 (國學院大學大学院日本史学専攻大学院会)

第二九号

愛知大学総合郷土研究所紀要 第四九輯

愛知大学文学論叢 (愛知大学文学会) 第一二九、一三〇

輯

いたみ (伊丹市立博物館) 第三三三号

市大日本史 (大阪市立大学日本史学会) 第二一六号

青森県史研究 (青森県史編纂室) 第八号

青山史学 (青山学院大学文学部史学研究室) 第二二二号

アカデミア (南山大学) 人文社会科学篇七八、七九号

アジアフォーラム (大坂経済法科大学アジア研究所) 第

二六号

アジア研究所紀要 (亜細亜大学アジア研究所) 第三〇号

アジア文化学科年報 (追手門学院大学文学部アジア文化学

科) 第六号

史観（早稲田大学史学会） 第一五〇、一五一冊

史泉（関西大学史学・地理学会） 第九九、一〇〇号

史艸（日本女子大学史学会） 第四四号

史叢（日本大学史学会） 第六九号

史窓（京都女子大学史学会） 第六一号

四天王寺国際仏教大学紀要 平成一五年度

社会科学研究（中央大学社会科学研究所） 第二四卷第一

・二号

史友（青山学院大学史学会） 第三六号

就実大学史学論集（就実大学総合歴史学科） 第一八号

湘南史学（東海大学大学院日本史学会） 第一五号

資料館紀要（京都府立総合資料館） 第三二号

史料館研究紀要 第三五号

神女大史学（神戸女子大学史学会） 第二〇号

信大史学（信大史学会） 第二八号

人文学報（東京都立大学人文学部） 歴史学編第三二号

人文論集（静岡大学人文学部） 第五四—二、第五五—一

冊

住友史料館報（住友史料館） 第三五号

西洋史学報（広島西洋史研究会） 第三二号

西洋史論集（北海道大学文学部西洋史研究室） 第七号

西洋史論叢（早稲田大学西洋史研究会） 創刊二五周年記

番号

專修史学（專修大学歴史学会） 第三五、三六号

創価大学人文論集 第一六号

高円史学（奈良教育大学高円史学会） 第二〇号

橘史学（京都橘女子大学歴史文化学会） 第一八号

千葉史学（千葉歴史学会） 第四三、四四号

中央史学（中央史学会） 第二七号

中国水利史研究（中国水利史研究会） 第三二号

津田塾大学国際関係研究所報 第三八号

敦賀論叢（敦賀短期大学） 第一八号

帝京国際文化（帝京大学文学部国際文化学科） 第一七号

帝京史学（帝京大学文学部史学科） 第一九号

東海史学（東海大学史学会） 第三八号

東京大学日本史学研究室紀要 第八号

東北学院大学東北文化研究所紀要 第三五号

東洋史苑（龍谷大学東洋史学研究会） 第六二、六三号

東洋史訪（兵庫教育大学東洋史研究会） 第一〇号

東洋大学文学部紀要 史学科篇 第二九号

東洋文化研究(学習院大学東洋文化研究所) 第六号  
徳川林政史研究所研究紀要 第三八号  
富山県立山博物館研究紀要 第一一号  
長野県立歴史館研究紀要 第一〇号  
七隈史学(七隈史学会) 第五号  
奈良学研究(帝塚山大学奈良学学会) 第七号  
寧楽史苑(奈良女子大学史学会) 第四九号  
奈良歴史研究(奈良歴史研究会) 第六〇、六二号  
新潟県立文書館研究紀要 第一〇号  
新潟史学(新潟史学会) 第五〇、五一号  
二松(二松学舎大学大学院文学研究科) 第一八集  
二松学舎大学東洋学研究所集刊 第三四集  
二松学舎大学論集 第四七号  
日本研究(国際日本文化研究センター) 第二八号  
日本学研究(金沢工業大学日本学研究所) 第七号  
日本思想史研究(東北大学大学院文学研究科日本思想史学  
研究室) 第三五、三六号  
日本常民文化紀要(成城大学大学院文学研究科) 第三三、  
二四号  
日本文化史研究(帝塚山大学日本文化史学会) 第三六号

日本モンゴル学会紀要 第三四号  
日本歴史学協会年報 第一九号  
年報人類文化研究のための非文字資料の体系化(神奈川大  
学二一世紀COEプログラム「人類文化研究のための非  
文字資料の体系化」研究推進会議) 第一号  
年報中世史研究(中世史研究会) 第二九号  
年報日本史叢(筑波大学歴史・人類系) 二〇〇三  
白山史学(白山史学会) 第四〇号  
パブリック・ヒストリー(大阪大学西洋史学会) 創刊号  
東アジア研究(大阪経済法科大学アジア研究所) 第三七、  
三八号  
三八号  
兵庫教育大学研究紀要(兵庫教育大学) 第二五号  
兵庫のしおり(兵庫県県政資料館) 第六号  
弘前大学国史研究(弘前大学国史研究会) 第一一五—一  
一七号  
一七号  
広島東洋史学報(広島東洋史学研究会) 第八号  
福井市立郷土歴史博物館研究紀要(福井市立郷土歴史博物  
館) 第一一号  
福岡教育大学紀要 第五三号第二分冊社会科編  
仏教大学総合研究所紀要 第一一号



室特別展図録（貝塚市教育委員会）

岐阜史学（岐阜史学会） 総目次

教育実践を重視した教師教育カリキュラムの日米比較研究

（仏教大総合研究所紀要別冊）

近世東三河の水産物流通（伊村吉秀著 愛知大学総合郷土

研究所研究叢書一七）

空間と距離の地理学（鈴木富志郎著 愛知大学総合郷土研

究所ブックレット八）

群馬県行政文書件名目録 第一五集 大正期学務編Ⅴ（群

馬県立文書館）

群馬県立文書館収蔵文書目録二二 甘楽・富岡地区諸家文

書（一）（群馬県立文書館）

現代医療の諸問題―仏教ヘルスケアの視点から（仏教大

総合研究所紀要別冊）

佐草家文書（島根県古代文化センター 島根県古代文化セ

ンター調査研究報告書二四）

在日華人系知識人の生活意識調査（追手門大学二〇〇三年

度学内共同研究報告書 研究代表者 重松伸司）

浄土真宗関係の絵画と書跡 貝塚市文化財調査報告第二集

（貝塚市教育委員会）

資料集神奈川県大学大学院歴史民俗資料学研究所十年の歩

み（神奈川県大学大学院歴史民俗資料学研究所）

天下の事成就せり―福井藩と坂本龍馬―（福井市立郷土歴

史博物館）

東南アジアにとって20世紀とは何か―ナシヨナリズムを

めぐる思想状況（東京外国語大学アジア・アフリカ言語

文化研究所）

新島村史 資料編Ⅴ 新島役所日記 宝暦〜文政（新島村）

日本美術院百年史 索引（財団法人 日本美術院）

発掘された明石の歴史展―太寺廃寺と高家寺（明石市立文

化博物館）

発掘された明石の歴史展―甦る明石城（明石市立文化博物

館）

福井市立郷土歴史博物館要覧二〇〇四（福井市立郷土歴史

博物館）

ふるさとを創る（愛知大学総合郷土研究所シンポジウム報

告集）

豊後国安岐郷の調査 資料編補遺（大分県立歴史博物館）

豊後国安岐郷の調査 本編（大分県立歴史博物館）

別子鉱山目録見書―第一部― フランス人鉱山技師ルイ・

ラロック著（住友資料館）

名品選（福井市立郷土歴史博物館）

もみじ 夕焼け 里の秋―唱歌・童謡のふるさと信州（長

野県立歴史館）

柳沢史料集成 第十卷 参勤交代史料集・御例集（柳沢文

庫保存会）

渡辺華山 郷国と世界へのまなざし（別所興一著 愛知大

学総合郷土研究所ブックレット七）